

詩吟神風流機関紙

神風流



第170号
令和7年4月12日

全日本詩吟道連盟理事長
詩吟神風流三代目総元

岩淵 神風

令和七年三月三十日、皆様のお陰をもちまして、明治記念館に於いて三代目襲名披露祝賀会を開催することができました。心より御礼申し上げます。

令和三年十一月七日、詩吟神風流創始九十五周年に合わせて、父とともに三代目岩淵神風襲名を発表させていただきましたが、コロナ禍であり皆様との宴を催す機会を得ないまま父が亡くなり、昨年父の三回忌を終えましたところでした。百周年を迎える神風流として前に進んでいかなければならないという皆様の心強い言葉に支えられ、また、歴史と伝統ある神風流に相応しい祝賀会を開催しようという案をいただき、役員の皆様のご熱意をもって、この度、三月三十日の祝賀会開催と

なりました。役員の皆様のご尽力に感謝申し上げますとともに、大勢の皆様にご出席をいただきまして、厚く御礼申し上げます。当日は新潟、富山、京都、遠方からも多数、足を運びいただきまして、心より感謝申し上げます。

神風流顧問の野田聖子先生、下村博文先生はじめ橋本聖子先生他、ご来賓の先生方にご臨席いただき、またこれまでの自分の人生の節目において支えてくれた友人、恩師、琵琶の先生、元職場の先生方、教子たち、快く司会を引き受けてくれたテレビ朝日アナウンサーの井澤健太郎君とは九年ぶりの再会でした。沢山の縁に感慨深い一日となりました。三代目を襲名し、神風流の素晴らしい音曲を受け継ぎ、後世に伝えなければならぬという大きな使命があります。出来るだけ多くの方に気軽に詩吟の面白さと奥深さを知っていただきたく、この度、教本に少

し工夫を加えることに致しました。私の詩吟教室では詩の解説を付けていたのでそれを活用し「導入本」として皆様にも共有できればと思います。本紙にも詩文解説を寄せていただいている藤千恵先生にご協力をお願い致しました。

漢詩・漢文を紐解くと、日本人の漢文の素養の高さに気がきます。江戸期・明治期には、漢詩は日本人の基礎的教養の一つであり、文語的な文体で、朗詠を通じてリズムや響きが体得できるものでありました。そうした漢詩を詠ずるといふ日本独自の文化は、その時代ごとの日本人の思想や感情を表現したものであります。漢詩の歴史的背景に注目することで現代においても広く普及できるのではと、藤先生と共通の理念のもと「神風詩吟集新版」として刊行することができました。三月三十日の宴にて謹呈させていただきました。この教本をお持ち帰りになった野田聖子先生から嬉しいご連絡がありました。教本を読んでもみたいところ早速教えていただきたい詩吟があります。とのこと。大変光栄に思います。

百周年大会に向けて始動しております。これまでの皆様方のご協力に感謝し、伝統ある神風流発展の為に尽力して参りますので宜しくお願ひ申し上げます。

第55回新年全国詩吟大会 兼各杯コンクール決勝

北区赤羽会館 令和7年2月23日

